

年もあり、下回る年もあって流動的に推移している（図2-4-3）。

今後の進学率については、全県的には、その伸び率が、従前より更に鈍化しながら上昇していくものと見られ、昭和70年度にはおよそ94.4%と予測される（表2-4-1）。

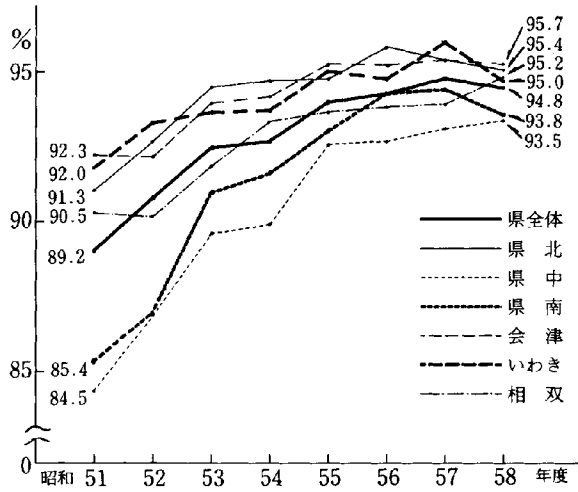
表2-4-1 地域別進学率の予測

(単位：%)

地域 年度	県北	県中	県南	会津	相双	いわき	県全体
60	94.8	93.2	95.0	95.6	94.8	89.0	93.5
65	95.3	94.4	96.1	96.3	95.5	89.3	94.2
70	95.5	94.7	96.5	96.5	95.7	89.3	94.4

注：1. 「高等学校教育課推計」(昭58)による。
 2. 回帰方程式は $y_i = (a+b) \log(x_i - 52)$ であり、 x_i は年度、 y_i は進学率である。

図2-4-3 地域別志願率の推移



注：1. 「高等学校教育課調査」(昭51～昭58)による。
 2. 志願率 = (志願者数) ÷ (中学校卒業生数) × 100

したがって、今後は、人口動態による過疎・過密の進行状況を精査し、また、昭和65年度をピークとする中学卒業生数の急増・漸減に伴う適切な収容対策を検討し、特に、進学率の低い地域に配慮しながら地域間格差の是正を図り、本県進学率の維持向上に努める必要がある。

(2) 入学定員と生徒数

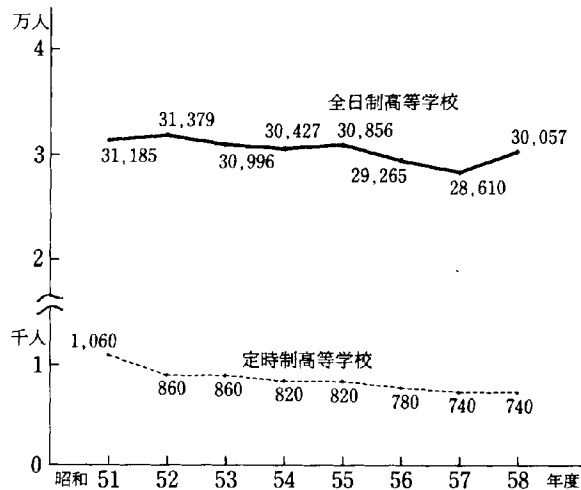
昭和51年度から昭和58年度までの全日制高等学校の入学定員の推移を見ると、地域により増減はあるが、全体としては昭和53年度以降減少傾向を示し、定時制高等学校においては昭和52年度に大幅に減少し、以降漸減している（図2-4-4）。

また、地域別志願者に占める全日制高等学校の入学定員の割合は、適正化が図られた結果、昭和58年度においては100%を超える地域もある（図2-4-5）。

生徒数は、昭和51年度以降減少し続け、昭和58年度には81,840人となっている（図2-4-6）。

次に、学科別生徒占有率の推移を見ると、普通科は昭和51年度との対比で、昭和58年度には3.0ポイントの増加を示している。また、職業学科について見ると、工業科・商業科・水産科が、ほぼ横ばいの状況となっているが、農業科・家庭科は、わずかに減少している

図2-4-4 高等学校入学定員の推移



注：1. 「高等学校教育課調査」(昭51～昭58)による。
 2. 入学定員は、県立、私立の合計である。